

科目	患者安全管理学	担当	北野 達也	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

患者安全、安全文化の確立について叫ばれる中、医療者-患者間の関わりなくして実現は困難である。医療の壁を無くすには、国民に対する家庭医療教、育幼児・学童期からの医学基礎教育の義務化、医療者-患者パートナー・シップの確立、コミュニケーション・スキル強化による情報の共有などが挙げられる。さらに、医療機関においては、患者の権利と安全文化に焦点をあてた質の高い取り組みが必要とされる。この講義では、医療現場における医療安全管理体制構築のみならず、患者に焦点を当てた医療安全管理体制再構築のための新たな実践手法を学ぶ。

【履修注意】

携帯電話電源切又はマナーモード、飲食禁、講義中入退室禁、10回以上出席を条件とする。
※「患者安全管理学」は医療マネジメントコース必修科目である。

【評価方法】

①期末テストによる評価:60%、②授業参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

【試験について】

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件:総合(期末テスト及び授業参加・レポート等)による評価が60点未満の学生
※但し、総合による評価が40点未満の学生は不合格とし、再試験を実施しない。

【予習・復習】

各回授業内容に応じ、授業前予習(専門用語、関連文献等の検索)、授業後の復習として、学習内容についてまとめ、国内外関連文献検索等によりさらに知識を深めること。※1コマ当たり90分を目安に予習・復習を行うこと。

【教科書】

購入教科書なし

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	Introduction	患者安全管理とは?患者安全、パートナー・シップ、情報共有
2	患者安全管理Ⅰ	「医療安全管理学」と「患者安全管理学」の違いについて
3	患者安全管理Ⅱ	米国での患者安全システム、フィランソロフィー等について
4	患者安全管理Ⅲ	本邦における医療現場の現状、医療事故対策の現状について
5	患者安全管理Ⅳ	患者安全管理の手法、ヒューマンファクター工学の応用、CRM
6	患者安全管理Ⅴ	医療現場における患者安全管理体制構築のための手法について
7	患者安全管理Ⅵ	患者参加、患者アドボカシー、患者代理人、第三者機関について
8	中間まとめ	1~7まとめ(レポート)
9	患者安全管理演習Ⅰ	患者安全管理体制未整備の医療機関院内改善:グループワーク
10	患者安全管理演習Ⅱ	模擬患者、医療提供者との関わりについて:グループワーク
11	患者安全管理演習Ⅲ	患者-医療者間パートナー・シップの確立、説明責任、ADR、対話促進、医療訴訟対応、医療コミュニティ・デザイン:グループワーク
12	患者安全管理実習Ⅰ	病院・診療所における患者安全管理実習Ⅰ:組織マネジメント評価
13	患者安全管理実習Ⅱ	病院・診療所における患者安全管理実習Ⅱ:医療メディエーション
14	患者安全管理実習Ⅲ	患者安全管理体制構築の手法、安全文化の普及啓発:演習Ⅰ Non-Technical Skills強化トレーニング(コーチング・スキル強化、ファシリテーション・スキル強化など)
15	患者安全管理実習Ⅳ	患者安全管理体制構築の手法、安全文化の普及啓発:演習Ⅱ Non-Technical Skills強化トレーニング(インプロヴィゼーション教育など)
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ